

◇ 伊藤 亮 (愛媛県土木部 道路都市局 建築住宅課)

※ 派遣期間 H23.6.1 ~ 10.31

一言コメント

未曾有の大災害となり、目にする耳にする建物被害も相当ひどいものでしたが、災害復旧にかかる業務は大変貴重な体験となりました。

その経験を自分の故郷の災害対策に活用すると共に、また、活気ある宮城の土地を訪れたいと思います。

◇ 福柁 正弘 (愛媛県中予地方局建設部建築指導課)

※ 派遣期間 H23.11.1 ~ H24.3.31

一言コメント

宮城は寒かったですけど、人はすごく暖かかったです。

大変、お世話になりありがとうございました。

◇ 坂本 年礼 (鳥取県西部総合事務所生活環境局建築住宅課)

※ 派遣期間 H24.4.1 ~ H25.3.31

一言コメント

まず、始めに被災地を目の当たりにし地震規模・津波被害の大きさに驚かされました。それにもまし驚き感動したことがあります。それは、被災地で被害を受けた当事者である県市町村職員の方々が必死に働いておられる姿でした。

派遣先での業務内容の大部分は市町村文教施設に係る災害現地査定業務でした。

災害査定の一連の流れですが、査定を受け内定を受けた施設は契約し、交付申請・決定後、実績報告・額の確定を行い国費の請求が受領されれば事業完了です。その一連の業務の中で、随行員として市町村が作成された事業計画書の内容を確認・訂正指示し、現地査定に同行する仕事を頂きました。

被災した施設を改修する為には災害発生後ただちに文部科学省(防災推進室)から施設の被害状況報告書の要請があり、各自治体毎に事業計画書の作成をしなければなりません。あれだけ多くの施設の被害状況を短時間で取りまとめたことを考えると、苦労は想像を絶します。

しかし、被災した施設を見ながらの作業は地震や津波を思い出され、どれほど心を痛めた事かと思います。

派遣の半年間は、プロパーの方々に教えて頂くばかりで、日々足を引っ張らないようについて行くので必死でした。休日の合間には、東北地方の観光地等を巡って回る機会がありましたが、どこも津波や地震の爪痕が残り、痛ましいものでした。

しかし、そこで生活されている方々の力強さに逆に励まされ派遣期間を全うする事が出来ました。写真で見る美しい東北の風景がいつの日か元の姿に戻る事を遠く鳥取の地から祈っております。

最後になりましたが、この場を借りまして派遣の一年間お世話になりました宮城県の方々に、心から敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。

※所属は、平成26年1月現在です。